

# 作業進まず1カ月

## 中国電と反対派 主張は平行線

### 上関原発計画ボーリング調査

中国電力(広島市)が上関町で進める上関原発建設計画で、中国電が建設予定地海域で予定していたボーリング調査は建設反対派住民による抗議活動で準備作業も進まないまま29日、1カ月を迎えた。一方、経産省が21日に示したエネルギー基本計画の改定案では原発新増設の記載は見送られており、原発着工の見通しが立たない中、中国電と反対派住民との対峙が続き、【監山隆俊】

中国電が県から海域の占用許可を受けてボーリング調査を実施するのび、2019年と20年に続いた2回の。中国電は建設予定地の活

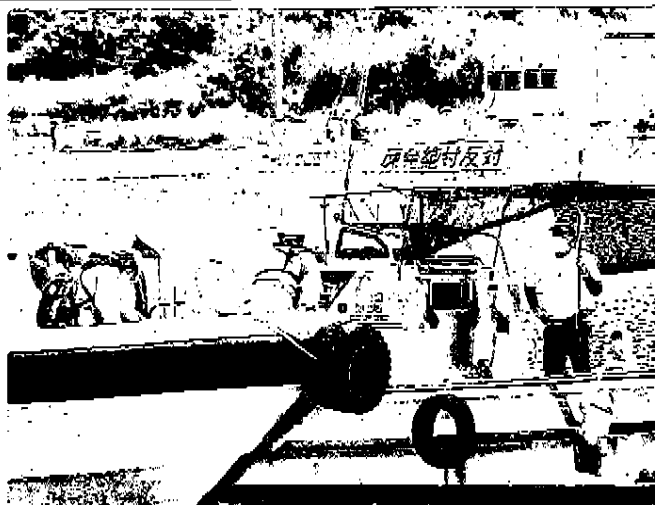
までの3カ月で、掘削地点にパイプを設置するなどの準備作業を29日に始める予定だったが、しかし、過去の回と同じく今回も住民らは調査場所付近に漁船を停泊させて抗議を続けている。中国電は16日、抗議活動を理由に準備作業開始を一時見合わせるを発表する一方、住民らには調査場所付近から速やかに離れるよう文書で求めている。

こうした中、経産省は21日、国の中長期的なエネルギー政策の指針「エネルギー基本計画」の改定案を諮問機関に示し、この中で原発新増設に関する記載が見送られた。中国電は「カーボンニュートラル(温室効果ガスの実質排出ゼロ)実現のため、おのずと新増設が必要になる」と従来の姿勢を示し、海域の占用許可の延長申請も視野に入れる。一方、反対派は「着工のめどが立っていない原発に関する調査は不要不急」と強調するなど、互いの主張は平行線のままだ。

# 東

木通1-28  
X31-0020  
e  
ll.co.jp  
読室  
-547012  
10-18時

22日、反原発運動で県内の中心的存在だった児童文学作家、那須正幹さんが79歳で亡くなった。住民とともに海域での抗議活動に取り組む男性は17年11月、建設予定地の沖合いに浮かぶ祝島に那須さんにとともに訪れたことがあるといい、突然の別れを惜しむ「計画は上関だけでなく、瀬戸内や日本全体の問題だ」と反原発への思いを新たにしていた。



上関原発建設予定地海域に船を停泊させ、ボーリング調査に抗議する住民ら。海沿には「原発絶対反対」と書かれた抗議標も